平成 28 年度

No. 2-4

第５次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署				
部局名	都市建設部			
課名	都市計画課			
係名	建築係			
記入者		電話(内線)	252	

1．事業の概要

(1) 事業種別［新規又は継続］	継続	(2) 事務事業の名称	友愛メルヘン橋管理事業	(3) 事業の優先度	A

(4) 総合計画での位置づけ		(6) 事業主体	市
① 事業の区分	主要事業	(7) 予算・財源等の種別	
② 施策コード	21104 （総合計画掲載ﾍﾟｰｼﾞ 71 ﾍﾟｰｼﾞ）	事業の性質	一般事業費(ソフト事業)
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)	会計区分	一般会計
基本施策	2-1計画的で魅力あるまちづくり(都市計画)	財源区分	市単独
施策	①計画的な市街地の形成	予算科目	款 8 項 3 目 8
施策内容	4友愛メルヘン橋の改修	予算書上の事業名称	施設管理経費 （予算書 145 ﾍﾟｰｼﾞ に掲載）
(5) 事業期間	開始 平成 5 年 2 月から 終了 年 月まで（ カ年）	(8)事務分類	自治事務
		根拠法令	建築基準法，耐震促進法

2．事業の目的及び内容

(1) 対象（だれに対して・何に対して行うのか）

結城駅を利用する通勤･通学する市民，結城市を訪れる観光客

(2) 手段（事業内容・どのようなことを行うのか）

●照明LED化修繕	2,515千円
●エスカレーター修理	4,679千円
●エスカレーター保守点検業務	3,240千円
●消防設備保守点検業務	119千円
●電気保安管理業務	128千円
●清掃業務	2,916千円
●除草及び剪定	420千円
●改修工事（受変電設備）	平成29年予定

(3) めざす姿（意図・どのような状態になるのか）

安全で安心な環境及び，魅力ある街づくりにより住みよい住環境の提供。

(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など
（※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし）

平成6年より友愛メルヘン橋が供用開始し，JRと管理協定を締結したことに伴い，施設管理及び関係法令に基づいた保守点検業務が必要となった。
今後も鉄道利用客及び市民の安全を図るため，改修工事などの修理が必要である。

(5) 事業をとりまく環境の変化（社会環境，市民ニーズ等）や市民・議会の要望，意見等とそれに対する対応

建築後20年を経過しており，屋根，外壁などから雨漏りが発生しており，通勤や通学等で利用している市民に安全な施設を利用してもらうために，早急な改修が必要であることと，今後高齢者のバリアフリー対策も必要としエレベーターの設置要望もあり，さらなる住みやすい住環境整備が必要である。

3．事業コスト

行政評価 実績内容の評価 → 検討・改善 → 検討・改善内容を反映
実施計画

● 予算内訳		実績額（千円）	当初予算額（千円）	計画額・見込額（千円）		
	事業内容	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
（1）事務事業費のコスト 事業費	需用費	6,855	9,582			
	役務費	114	119			
	委託料	6,770	6,823			
	設計委託料(実施設計)					
	工事請負費					
	合計	13,739	16,524			
財源	国庫支出金 (千円)					
	県支出金 (千円)					
	地方債 (千円)					
	その他特定財源 (千円)					
	一般財源 (千円)	13,739	16,524			
	合計 (千円)	13,739	16,524			
	補助・起債制度名					

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）

指標の名称		単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）							
指標名 改修工事の実施状況	目標値	回		0	1	0	1
	実績(見込)値		0	0			
指標名 修繕工事	目標値	回		12	13	13	13
	実績(見込)値		11	11			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）							
指標名 駅の利用者数	目標値	人		2,000	2,000	2,000	2,000
	実績(見込)値		2,000	2,000	2,000	2,000	2,000
	達成率		100.0 %	100.0 %			
指標名	目標値						
	実績(見込)値						
	達成率		%	%			

5. 事業評価

(1)平成27年度の行政評価結果をうけて，平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。

保守点検委託業務などにより，維持管理は適正に行われ，電灯のLED化により，電気料などのランニングコストを抑えることができたが，建物の老朽化により雨漏り，外壁からの漏水など目立つようになり，大規模改修工事を行う必要性がある。また，エレベーターの要望もあり，今後，鉄道の利用者数やその他利用者を調査し，JRも交えた検討を要する。

(2) 項目別評価

評価項目・客観的評価				理由
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	結城市の玄関口として，今後も維持管理に努める必要がある。
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	JRとの協定により市が運営する施設である
	手段の妥当性	A	妥当である	現在の手段が妥当である
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	入札や長期契約を適正に行い，コスト削減を実現している。
公平性	受益者の偏り	A	偏りは見られない	利用者に隔たりはない
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	定期的に修理などで対応しているが，老朽化により大規模修繕が必要である。
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	改修工事に際し，JRとの協議が必要であること及び補助金の確保等課題は多い

(3)総合評価　上記評価を踏まえて事業全体について評価し，問題点・課題等を指摘してください。

保守点検委託業務により，日常の保守管理は適正に行われ，利用者が快適に利用できるよう維持管理に努めた。
老朽化により大規模な修繕を行うことが必要であるが，事業計画の策定，国庫補助金の確保などの資金面の確保も検討課題である。

(4)対応策・提言等　この事業を今後どのように改善･改革をしていきますか？

維持管理は現在の状況を持続していくことが必要である。
修繕の優先度計画を作り，国庫補助金の確保，JRとの協議等，資金面と工事面の検討課題を解決していく必要がある。

6. 事業の方向性判断

評価主体	28年度以降の事業の方向性	評価理由・根拠
(1)記入者評価 記入者が評価を行う	**拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)**	注）記入者は「5. 事業評価」を記載するため，この欄は未記入で結構です。
(2)一次評価 担当課長が評価を行う	**拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)**	修繕計画を作り，JRとの協議検討を行いながら，利用客や市民に安全で安心な施設に維持に努める。施設整備に導入可能な財源の調査研究に努める。
(3)最終評価 企画調整会議において評価を行う		上記評価のとおり。